

文部科学省検定済教科書
[平成22年教 内容解説資料]

日文の教科書なら、
新しい学習指導要領に基づいた授業で
活用できます。

| 発行者の 番号・略称 | 教科書の 記号・番号 | |
|---------------|---------------|--------|
| | 116 日文 | 1年 |
| | 2・3年上 | 美術 811 |
| | 2・3年下 | 美術 812 |



つくり出す喜びから創造の喜びへ、図画工作の学びが美術の学びへとつながります。

創造活動の原点を探る題材で図る小・中連携



図画工作5・6年下 P6・7 「地球アート」

新しい学習指導要領では、A表現(1)(2)「発想や構想に関する内容」とA表現(3)「表現の技能に関する内容」が、明確に分けて示されました。また、「共通事項」が新たに示されました。これは、小学校図画工作科、とりわけ「造形遊び」からの連続性を視野に入れたものです。身の回りにあるものから美しさを見つけ出し、思いのままに表現する体験ができる題材に取り組むことによって、小・中のギャップにとまどうことなく、美術科の学習の魅力を感じ取っていくことができます。

小学校で学んだことを彷彿させる図版や構成

小学校図画工作科



中学校美術科

新しい学習指導要領から…

制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現する [A表現(3) 技能に関する内容]

版画や焼き物など、制作の順序や作業の効率を考え、見通しをもって表現していくべき題材では、制作の過程や技法の要点をしっかりと理解して取り組めるよう、必要に応じて、わかりやすく具体的に示しています。技術を一方的に教えるのではなく、生徒自身が表現の技能に関する要点を発見し、自分の表現に生かしていけるように配慮しています。

目で見ても「なるほど！」と理解できる制作過程と技法の活用



1年 P18・19 「版のよさを生かして」

スケッチで育てたい「見る力」「感じ取る力」「考える力」「描いて伝える力」

スケッチブックをそのまま掲載。より身近に感じることで、写し取る難しさや技術的な抵抗感を払拭します。

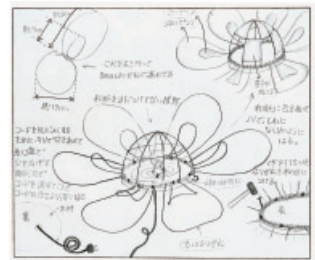
対象を見つめ、誠実に写し取るスケッチで、身近なものよさや美しさに気づき、感動し、驚くことを通して、「見る力」や「感じ取る力」を育てます。また、描きながら考え、考えながら描く、発想や構想を練り上げていくスケッチや、伝えたい情報を効果的に伝えるプレゼンテーションとしてのスケッチで、「考える力」や「描いて伝える力」を培います。日文の教科書では、あらゆる場面でスケッチの活用を取り入れています。



1年 P10・11 「スケッチの楽しみ」



1年 P23 「木の葉のスケッチ」生徒作品



2・3年上 P19 「アイデアスケッチ」生徒作品



2・3年上 P19 「温かい花」生徒作品

新しい表現の可能性を拓く映像メディアへのチャレンジ



2・3年上 P16・17 「映像表現の広がり」

世界を切り取る、その瞬間が表現につながる静止画像(写真)や、時間の経過や動きのおもしろさを生かすことのできる動画(ビデオ)などの映像表現、さらにはそれらを試行錯誤しながら自在に加工し、編集できるコンピュータの活用は、表現の世界に多様な可能性を拓きます。

情報化社会の急激な発展により問題となっている著作権侵害や、見る側の立場に立った作品制作の配慮などについても学びます。

写真を自分の表現に取り込んで制作する時は、なるべく自分で撮影した写真か、自由に使ってもらっている(フリー素材)写真を使いましょう。他の人の創作物には著作権があり、使う時には基本的には許可が必要です。

2・3年上 P16・17 著作権についての説明文

楽しく効果的に表現する漫画、イラストレーション



2・3年上 P12・13 「楽しく効果的に表そう」

漫画やイラストレーションは、表したいことや伝えたいことを楽しく効果的に表現することのできる身近な手段です。漫画やイラストレーションに見られる、単純化（整理）や強調（誇張）、色調や配色の工夫、形と色彩の調和による洗練や象徴化などの独特の表現を学びながら、自らの表現に生かします。

身近で分かりやすい生徒の活動事例は、効果的な表現への見通しを与えます。

美術を通して受け継ぐ日本の伝統文化

新しい学習指導要領では、「美術文化についての理解」を深めることが新たな内容として加わりました。日文の教科書では、たとえば日本の伝統的な色名から、日本独特の自然観や生活観に触れることができます。また、古くから伝わるものを受け継ぎ、新しい表現の世界を創造してきた多様な伝統文化に学びながら、表現の幅が広がっていくように配慮されています。



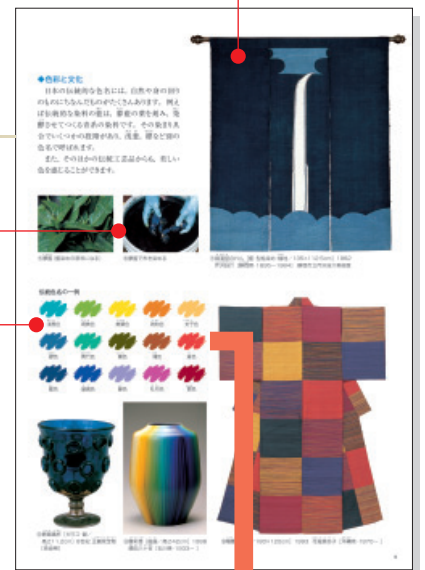
2・3年上 P21 「染色による表現 紅型」

藍染めの原材料と作例
原材料や制作過程からものづくりへの関心を高めます。



2・3年上 P31 「沈金春愁文漆箱」前史雄

色の成り立ちへの興味を喚起するため、日本の伝統色名を漢字で表記しました。



1年 P9 「色彩と文化」

伝統色名の一例



アジアの美術、保存や修復

多様な魅力が味わえるアジアの美術

アジアに古くからある茶を楽しむ習慣は、茶器の文化を生み出し、製陶の技術とともに東西に伝わっていきました。また、漆の木が息づく風土とともに育まれた漆器の文化など、アジアの美術の魅力を通して、美術文化の広がりや継承について学びます。



2・3年下 P38・39 「アジアの多様な美術」

保存や修復に学ぶ、美術文化への私たちの責任

高度な知識や技能を身につけた専門家が、どのように美術作品の保存や修復に取り組んでいるのかということや、美術作品を私たちの共有財産として大切に守っている美術館の役割、美術文化への私たちの責任について学びます。

修復前と修復後の作品
生徒が興味深く学ぶことができる具体的な事例

「茶とアジア」
美術文化が生活や習慣とともにあることを、分かりやすくコラムとして示しています。



2・3年下 P29 「作品の保存と修復」

話し合うこと／言語活動



2・3年下 表紙



2・3年下 裏表紙

対話を通して学びを拓く鑑賞の学習

たとえば「美術2・3下」の表紙を見ながら「これは何だろう?」と発問してみます。生徒たちは「彫刻?」「建物じゃない?」「かなり大きそう」「まわりが全部空だから背が高いものだと思う」など、対話を通して、考えを広げたり深めたりしていきます。裏表紙では、これがサグラダ・ファミリア聖堂の鐘塔の尖頂であることが種明かしされています。その他にも、生徒たちが対話を通して学びを拓いていく鑑賞に適した作品が、数多く用意されています。

提案型学習を通して培うプレゼンテーション能力

仲間の前で発表し合う提案型学習では、それぞれの思いや工夫の共有化と学び合う機会を通して、生徒のプレゼンテーション能力を培います。



2・3年下 P20
「模型やテレビモニターを使っでのプレゼンテーション」

「作者の言葉」
生徒の言葉により、表現に向かう中での気づきや学びを共有することができます。



2・3年下 P20 「学校や地域への発信」

〔共通事項〕

どの題材とでも組み合わせて学習できる色彩学習の折込みページ

色彩の学習は、新しい学習指導要領で示された〔共通事項〕を代表するもののひとつです。折込みページを広げることで、「色相環」や「色の感じ」などを、常に他の題材と組み合わせて学習することができます。



1年 P7 「色との出会い」(折込みページ)



1年 P8 「色との出会い」

「表現」、鑑賞」の領域を超えた学びを拓く〔共通事項〕の扱い

日文の教科書は、新しい学習指導要領で示された〔共通事項〕と同様の考えをすでに含んで編集されています。たとえば…

- ・小学校画工作科の「造形遊び」からの連続性を視野に入れた題材を掲載しています。(表紙をご参照ください。)
- ・「色との出会い」のページでは、身近な生活や自然に向けるまなざしを導く図版を掲載しました。色の美しさや魅力と出合わせ、色を生かす表現への意欲を喚起し、自分なりの表現方法を獲得する土台を築きます。これは、〔共通事項〕の「ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。」に通じます。
- ・また、作家の作品と生徒作品を対等に配置し、「表現」「鑑賞」といった領域を超えた学びを拓くように工夫された紙面構成で、自分らしい表現内容に関わるイメージする力の土台を築きます。これは、〔共通事項〕の「イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。」に通じます。